

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立松阪商業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒・教職員が「誇り」をもち、保護者・地域から「信頼」される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自己指導能力（そのとき、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力）を持った生徒</li> <li>* 起業家マインドを持ち、課題に気づき、解決に向けて自ら考え、自発的に働きかける行動力で、卒業後の次のステージでも活躍する生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を目指した改善を進め、進路希望実現のための学力保障ができる教職員</li> <li>* 共通認識を基盤として個々の特性を活かした連携が図れ、生徒に寄り添ったきめ細かい指導ができる教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 安全安心に過ごせる充実した学校生活と進路希望の実現を望んでいる。</li> </ul> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒が安全安心な学校生活を送るとともに、進路希望の実現を期待している。</li> </ul> <p>&lt;地域&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒の公共心とマナーが育成され、専門学科としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。</li> </ul>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;家庭&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 安全安心な教育環境と心身共に健康な生徒の育成</li> <li>* 進路希望を実現するための支援</li> <li>* 学校教育活動等の迅速な情報提供</li> </ul> <p>&lt;中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学力面、生徒指導面での中高の連携</li> <li>* 外国人生徒の指導のための一層の連携</li> </ul> <p>&lt;地域社会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 関係機関、事業所との連携・協力の推進</li> <li>* 挨拶・身だしなみ等の指導</li> <li>* 学校教育活動等の情報発信</li> </ul>	<p>&lt;家庭&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校の教育方針に対する理解と協力、家庭での基本的な生活習慣の教育</li> </ul> <p>&lt;中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 基礎学力の向上、継続的な指導のための個々の生徒の情報共有</li> </ul> <p>&lt;地域社会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 本校の専門性や特色を理解したうえでの生徒の活躍の場の提供</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>授業アンケートにおける質問項目の構成はよく考えられている。アンケート活用について成績評価と無関係という表記があるとよい。</p> <p>就職後すぐの離職を避けるため、今後も生徒が就職後にミスマッチと感じない取組をお願いしたい。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 単位制高校としての利点を生かし、少人数や習熟度講座を編成し、学習者へのきめ細かな指導を行い、希望進路の実現を図っている。</li> <li>* 生徒が主体的に学ぶことが出来る授業の構築を目指して、授業研究や授業改善、ICT のさらなる活用などの取組を推進することが求められる。</li> <li>* 基礎学力の定着・向上に向けて、生徒自身が自ら学習する習慣を身につけさせる仕掛けを考えていく必要がある。</li> <li>* 「三重県いじめ防止条例」に基づき、いじめの防止及び早期発見に努め、生徒が望ましい人権意識をもち、安全安心な学校生活を送ることができるように取り組む必要がある。</li> <li>* 学習活動や部活動、挨拶を始めとする礼儀や身なりなど、地域から一定の評価が得られており、引き続き基本的な生活習慣や社会性を身につけさせる取組を進める必要がある。</li> <li>* グローバル教育を推進するため、国際交流の機会を拡充する必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 伝統ある地域の商業高校として、地元産業界等と強いネットワークで結ばれている。この資産を活かしつつ、地域連携や地域交流を再開、充実させる。</li> <li>* 商業教育の拠点校として、高い専門性を有した教職員が配置され、スペシャリストを育成するノウハウを備えている。</li> <li>* 募集定数の確保が難しい状況が続くが、より特色を出せる教育内容を実施し、改善を加えながら、新たな松阪商業高等学校の魅力を発信していく。</li> <li>* 教職員の負担が増え続ける中、働き方改革を見据えた業務改善や精選が急がれる。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒、教職員が、「自己指導能力」および「気づく力、自分で考える力、行動する力、質問する力、表現して伝える力、粘り強く取り組む力」の育成を目指すという共通認識を持ち、すべての教育活動に臨む。</li> <li>* 3年間を通した探究学習、課題解決学習を、1年次「ビジネス基礎」、2年次「マーケティング、ビジネスコミュニケーション」、3年次「課題研究(課題は2年次までに各生徒で決定)」を軸に実施する。</li> <li>* 生徒の非認知能力は AiGROW で測定し変容を見ていく。また、生徒の活動に対する外部人材からの助言・評価や授業アンケート等も活用して、生徒個々の学習と教育活動の、両面の改善に活かす。</li> <li>* 「学びの基礎診断」を活用して、基礎学力や自己実現に向けた生徒自身による進路決定意識を養う。</li> <li>* 学校の魅力化・特色化の一環として高度な資格取得を進め、資格を活かせる進路指導を行う。</li> <li>* 「命の尊さ」や「いじめ防止」を様々な機会や方法を用いて繰り返して伝えていく。</li> <li>* グローバル教育推進のための国際交流の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 外部関係機関との連携による教育活動展開を進め、生徒が校外で学ぶ場を創出していく。</li> <li>* 生徒の活躍の様子を、様々な方法で広く発信することに努める。</li> <li>* 「学校信頼向上委員会」を中心に、不祥事根絶に向け「信頼される学校であるための行動計画(松阪商業高校)」に基づいた取組を推進する。</li> <li>* 学校安全衛生委員会において働き方改革の推進を図り、過重労働時間の削減を進める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。  
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
規律ある行動の徹底 (総務)	【活動指標】 ・ 儀式、集会を通して集団の一員としての自覚を深めさせ、迅速な整列・行動を周知徹底させる。 【成果指標】 ・ 集合時の点呼、開始を計画どおり実施し、粛々と執り行う	・ コロナ5類移行により儀式、集会は以前並となり、迅速な整列・行動の周知徹底が図れた。 ・ 点呼、開始を設定された校時通りに執り行った。	
防災訓練の実施 (総務)	【活動指標】 ・ 防災訓練を通じて、集団行動の重要性を認識させ、危機管理や防災についての意識の高揚を図る 【成果指標】 ・ 年1回の防災訓練の実施	・ 担任の指導により防災に対する意識の高揚を図ることが出来た。 ・ 12月22日に、緊急地震速報に基づいた避難訓練を実施した。	
保護者アンケートの実施 (総務)	【活動指標】 ・ 保護者対象アンケートを実施し、分析・考察を行い、本校教育活動に活かす。 【成果指標】 ・ 1月にアンケートを実施し、職員会議にて検討を行う	・ 133名(29%)の保護者から回答。昨年度より回答率が23ポイント減少した。 ・ 3月の職員会議にて検討を行う	
家庭学習習慣の定着 (教務)	(1) 学習時間調査の実施 【目標】 家庭学習の大切さを意識づけ学習習慣の定着を図る。 【取組内容】 1学期・2学期それぞれで面談週間を設ける。面談を通して生徒自身が生活時間を振り返ることで、学習時間の確保につなげられるようにする。 【活動指標】 担任による、年間2回以上の個別面談の実施率 100%。 【成果指標】 家庭学習時間が1日あたり1時間以上の生徒の割合を、70%以上にする。	・ 今年度も面談週間を設置し、100%の実施が達成できた。 ・ 1日当たりの家庭学習時間が1時間以上となる生徒の割合は、6月実施時 35.5% (昨年度 43.8%)、10月実施時 26.5% (昨年度 31.0%)であった。	
授業アンケートの実施 (教務)	(2) 授業アンケートの実施 【目標】 生徒に「授業アンケート」を実施して、授業のさらなる改善に活用する。 【活動指標】 授業アンケート実施率 100%を目標とする。 【成果目標】 「授業の理解度」の肯定意見を 80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を 80%以上にする。	・ 授業アンケートの実施率は 76.6%であった。 (昨年度 88%) 授業の理解度は 99.2%の肯定的意見であった。 (昨年度は 86%) 質問ができる雰囲気は 97.2%であった。(昨年度 98%)	

<p><b>国際教育 (研究・人権)</b></p>	<p>○外国につながる生徒と日本の生徒が、相互に学び合える学習環境を構築する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 外国につながる生徒が、日本語による授業を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、言語的学習支援を行う。</p> <p>(2) 自国を見つめ直す視点を養う教育を展開し、学び合ったことを発表する機会を持つ。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) 国語科における取り出し授業および放課後等の日本語学習を実施する。</p> <p>(2) 商業科目「観光ビジネス」で実施する。</p> <p>○海外語学研修(予定:オーストラリア)を令和6年3月中旬に実施する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 海外語学研修の実施に向けたアンケートを、1、2年次生徒対象に実施する。</p> <p>(2) 海外語学研修を実施できるよう準備を進める。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1)、(2) 実現できたかを成果指標とする。</p> <p>○台湾 新北市立三重高級商工職業高校との交流事業の在り方を検証する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 「日本の観光物産展」(於:台北駅)に出展し、三重県の観光をPRするとともに、姉妹校を訪問する。</p> <p>(2) 国際ビジネス科生徒とのオンライン交流会を実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1)、(2)実施できたかどうかを成果指標とする。</p>	<p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 外国につながる生徒が、日本語による授業を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、言語的学習支援を行った。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) 国語科における取り出し授業および放課後等の日本語学習を実施した。</p> <p>(2) 日々の授業でグループワークに取り組むことができた。</p> <p>(1)を実施し、3月中旬から下旬にかけてオーストラリア語学研修を実施することができた。</p> <p>(1)10月下旬に実施することができた。</p> <p>(2)羅東高級商業職業学校が11月上旬に本校に来校する形で実施することができた。</p>	<p>※</p> <p>※</p>
<p><b>探究的な学習 の推進 (研究)</b></p>	<p>○学校全体で探究学習を推進する「三重丸モデル」を構築する(三菱みらい育成財団「心のエンジン」事業に応募する)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 対象生徒は令和5年度入学生からだが、在校生においても先行実施する。</p> <p>(2) 外部助言者(大学教員、企業関係者等)を招聘し、中間発表会(校内ポスターセッション)と成果発表会(久居アルスプラザ)を実施する。</p> <p>(3) 3年次 課題研究の実施について、「教師提案型」から「生徒立案型」に変更する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) アントレプレナーシップに関わる講演会またはワークショップを</p>	<p>三菱みらい育成財団カテゴリー1に採択され、(1)～(3)すべてにおいて実現することができた。ただし、(2)会場を本校体育館に変更して実施した。</p> <p>(1)実施することができた。</p>	<p>◎</p>

	<p>1・2年次授業で2回以上実施する。</p> <p>(1) 外部のビジネスプランコンテスト等に5大会16企画以上参加する。</p> <p>(2)、(3) 実現できたかを成果指標とする。</p> <p>○ビジネス探究プログラムを構築する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 昨年度、県内独立商業4校が各校で作成した単元プログラムを本校で実施し、修正・改善を通して形づくる。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) 教材と指導マニュアルを作成し、各校に提案する。</p> <p>○生徒一人1台端末の利活用を推進する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 1、2年次生徒において、生徒一人1台端末を活用した教育活動を展開する。</p> <p>(2) 探究学習に AiGROW を活用する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) 生徒一人1台端末について生徒にアンケートを取り、「活動できた」との回答を90%以上にする。</p> <p>(2) 1、2年次生徒対象に、AiGROWによる測定を年3回以上実施する。</p>	<p>(2) ㈱リクルート 高校生 Ring に 12 企画、全国高校生 SBP 交流フェアに 1 企画 大学 2 企画、みえ高校生創造サミットに 2 企画出展し、6 大会 17 企画出展した。</p> <p>(1) 3 月末に完成予定で進められている。その後、各校に配布予定である。</p> <p>(1) 現時点でアンケート指標はとっていないが、ほぼすべての生徒が日常生活で一人一台端末を活用している。</p> <p>(2) 1 年生は 2 回実施、2 年生は 3 月実施予定。</p>	<p>※</p> <p>※</p>
<p><b>ICT教育</b> (教務)</p>	<p>頭髪服装指導を月に一回実施し、また登下校指導や校外指導の実施により、松商生として誇れる身なりやマナーの向上を自発的に行うことができるような意識付けを図る。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>日常的にしっかりとした制服の着こなしや校則を守ることのできる、また社会的なマナーを身につけられる生徒を増やすため、講話や通信等を活用した啓発に力を入れる。</p>	<p>学年毎の頭髪服装指導を 9 回行った。校則を守る生徒がほとんどであるが、守れない生徒に対しては個別指導を行った。生指講話や長期休み前の通信等で校則を守り、社会的なマナーを身につけられるよう啓発を行った。</p>	
<p><b>生徒指導</b></p> <p><b>将来の進路への意識の向上</b> (進路指導)</p>	<p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 外部講師等を活用した進路講話・ガイダンスを実施する。</p> <p>(2) 1、2年生は頭髪服装指導の待機時間を利用して「進路ノート」を活用し、キャリア・パスポートを定期的、継続的に行う。</p> <p>(3) 1、2年生は基礎学力の定着や向上のため、「実力診断テスト」を年2回行う。また、その結果を分析し、教科と共有して授業力向上につなげるとともに、蓄積されたデータを個人面談等を通して進路指導に役立てる。</p>	<p>(1) 各学年計画通りに実施できた。</p> <p>(2) 学年主任主導で計画的に実施した。2 年次の末日に進路ノートは生徒に返却する。</p> <p>(3) 計画通り実施した各学年とも 12 月末にベネッセから分析結果のプレゼンを行った。</p>	
<p><b>保健指導の充実</b> (保健)</p>	<p>(1) 毎朝の検温など自分の健康状態に留意し、疾病・感染症の予防に努めさせる。</p> <p>(2) 心の自己管理能力を高めさせ、望ましい人間関係を維持させ</p>	<p>(1) 保健だより等を通して、繰り返し生徒に情報提供を行い、毎日の検温や体調チェックを習慣づける</p>	

	<p>る。</p> <p>(3) 男女の特性や多様化する性への理解を深めさせる。</p> <p>(4) 学校生活を安全に健康に過ごせるよう環境美化に取り組む。</p>	<p>など、感染リスクを抑える行動をとることの大切さを伝えた。</p> <p>(2)保健委員会による保健だよりを発行し、保健(主に感染症予防)関連の情報の発信をすることができた。文化祭では、「心の回復力(レジリエンス)」を高めよう」のテーマで「心の健康」について、企画展示を行った。</p> <p>(3)心身の発達に合わせた性に関する講演を行い、正しい理解を深めることができた。</p> <p>(4)疾病・感染症の予防のため、手指消毒が常時できるよう、環境を整えるよう努力した。</p>
<p>人権教育の推進 (人権教育推進)</p>	<p>人権教育推進計画に基づき、HR活動や教科学習、講演会などをおして人権尊重の精神を培い、周囲にある課題に気づき人権意識を持って自立した行動のできる生徒を育成する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>「人権室だより(通信)」の発行等により、フィードバックの機会を設け、人権学習の定着を図る。</p> <p>【成果指標】</p> <p>通信の発行年間5回。</p>	<p>【活動指標】</p> <p>「人権室だより(通信)」の発行により、フィードバックおよび事前・事後学習の機会を設け、人権学習の定着を図った。</p> <p>【成果指標】</p> <p>通信発行年間5回</p>
<p>図書館利用教育 (図書)</p>	<p>(1) 学校図書館の利用の意義を理解し、またマナーの習得等、生涯教育の場となる公共図書館等の利用につながるような基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>(2) クラス生徒への働きかけのきっかけとなるように、図書委員会活動を活性化させ、親しみやすい学校図書館を目指す。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) マナー指導や図書委員会による「図書館通信」の発行、ショーウィンドウ展示等を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 図書館利用にあたってのマナー指導(随時)を行う。</p> <p>(2) 図書委員会による「図書館通信」を発行(年5回程度)する。</p>	<p>(1)図書館利用の意義・マナーは、1学年に対し、図書館オリエンテーションを実施。</p> <p>(2)図書委員会活動は、カウンター当番、「図書館通信」の発行、ショーウィンドウ展示、校内ビブリオバトル、文化祭企画などを実施。</p>
<p>生徒会活動の充実 (生徒会)</p>	<p>(1) コロナ禍を経た社会状況に対応しながら、生徒主体で生徒会行事・企画を運営していく。</p> <p>(2) クラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 生徒が主体となって各行事(体育祭・文化祭・クラスマッチ・壮行会等)を運営し、すべての生徒にとって充実した経験をするこ</p>	<p>(1)生徒会執行部を中心に生徒会活動や生徒会行事を運営することができた。</p> <p>(2)各クラブの活発な活動・活躍に対して壮行会の機会を多く設けたこと、野球部の夏の県大会の応援で吹奏楽部・有志の応援団</p>

	<p>とができ、思い出に残るような行事を計画・実行していく。</p> <p>(2) 生徒会冊子「松籟」で活動報告成績等の紹介を行う。</p>	<p>を中心に盛り上げたことなどを通じて部活動の活性化につなげた。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 生徒会執行部を中心に生徒が主体となって対面式、体育祭、文化祭、クラスマッチを企画・開催し、成果を出すことができた。また、生徒執行部が県教育委員会の企画に参加していじめ防止動画を作成・応募し、啓発につなげた。</p> <p>(2) 「松籟 60号」を発行し、今年度の生徒会活動やクラブの活動実績等をまとめて生徒に還元した。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 生徒会行事に関するアンケートを適宜行ない、活動に生徒の意見を反映させることができた</p>	
<p><b>学年の指導</b></p>	<p>(1) 学校行事や授業を通じ、社会で必要となる協調性、自己管理能力、責任感や主体性を育み、社会人として相応しい規範意識を高める。</p> <p>(2) 商業を学ぶことにより、ビジネスの世界で役立つ能力を身につける。自己の適性を理解することで、将来の進路希望を早い段階から模索していく力を高める。</p>	<p>※</p>	<p>※</p>
<p><b>キャリア教育 (商業科共通)</b></p>	<p>○探究学習モデル『三重丸モデル』で掲げるアントレプレナーシップを実現するため、企業、外部一般団体、専門学校との連携を深めた商業教育を展開する</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 1年次 ビジネス基礎において、SBP (Social Business Project) 活動に関わる講演会とワークショップを実施する。</p> <p>(2) 1年次 ビジネス基礎または2年次マーケティングにおいて、産業DXに関わる講演会またはワークショップを実施する。</p> <p>(3) VISON多気株式会社を中心になって取り組んでいるデジタル田園都市国家構想に課題研究の授業で取り組む。</p> <p>(4) 2年次マーケティング、ビジネスコミュニケーションにおいて、ビジネスプランコンテストに参加する。</p> <p>(5) 3年次 課題研究の授業展開を抜本的に見直す。 「教師提案型」から「生徒企画型」へ転換する。 外部助言者を招聘し、課題研究中間発表会と課題研究成果発表会を実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1)、(2) 1、2年次で3回以上実施する。</p>	<p>(1)～(5)すべてにおいて実施することができた。特に、(3)～(5)については、新たな学習の試みであったが、商業科教員の協力により実現することができた。</p> <p>(1)1年次ではなく2年次のマーケティング受講者で実施した。 (2)については、両学年とも実施することができた。</p>	<p>※</p>

<p><b>教育課程・ 学習指導 (商業科共通)</b></p>	<p>○商業科のすべての年次で「探究学習」を実施する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 1年次 ビジネス基礎において、ビジネス探究プログラムを実施する。</p> <p>(2) 2年次 マーケティング・ビジネスコミュニケーションにおいて、リクルート社:高校生Ringビジネスプランコンテストに応募する。</p> <p>(3) 3年次:課題研究において、課題研究発表会を2回実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) 実施できたかを成果指標とする。</p> <p>(2) 2年次すべてのクラスにおいて、高校生Ring ビジネスプランコンテストに応募する。</p> <p>(3) 課題研究発表会に外部助言者を招聘し、講評を受ける。</p> <p>(3) 課題研究発表会は、1回以上校外で実施する。</p> <p>○学習した知識を生かすため外部教育力を導入するなど生徒のスキルアップに努める</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 高専連携授業(本校と大原簿記医療情報専門学校津校)を活用した授業を推進する。</p> <p>(2) 外部講師を活用した授業を推進する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) 高専連携授業を、商業2科目以上、3回以上実施する。</p> <p>(2) 外部講師による授業を商業2科目以上実施する。</p> <p>(2) 外部講師による講義を学年または商業系クラブ活動で取り入れ、年3回以上行う。また、起業やビジネスに係る講演会・ワークショップを年1回以上行う。</p> <p>○ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかり、幅広い科目で上位級合格を目指す</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 全商検定合格者数の増加を目指すだけでなく、公的・民間主催の検定の受験を積極的に行う。</p> <p>(2) 1年次 簿記、情報処理の基本的な知識と技術の定着をはかる。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1) 商業系の各種検定試験の合格者について、昨年度の 学年比を上回ることを目指す。</p> <p>(2) 1年次に受験予定の全商検定合格率70%以上を目指す。</p>	<p>(1)~(3)すべてにおいて、実施することができた。</p> <p>(1)2年次財務会計(Aコース)、(2)S3C電子商取引、課題研究「地域アンバサダー」で実施した。また、1学年で2回、2学年で1回、講演会を実施した。</p> <p>(1)、(2)日商簿記検定の受験者が1年生、2年生でほぼ全員になった。</p> <p>(1)今年度の卒業表彰の結果より、表彰対象者が10名程増加したことから、昨年より増加したと考えている。</p> <p>(2)全商情報処理検定の合格率が70%を下回った。次年度の授業改善に生かしたい。</p>
--	--	--

<p>教育課程・ 学習指導 (国際 ビジネス科)</p>	<p>○Chromebook やプロジェクタなど ICT 機器を活用した授業を推進する</p> <p>(1) 授業に係わるアプリケーションを活用する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 1、2年次の商業科必履修科目において、Chromebook を活用した授業を実施する。</p> <p>1年次の基礎基本の指導を大切にし、ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかる。商業に係る全商検定だけでなく、全商英語検定2級や実用英語技能検定準2級以上の取得を目指す。また、一年次ではビジネス基礎、二年次ではビジネスコミュニケーションを中心に探究学習を展開し、全教科と連携しながら来年度に実施される課題研究につなげていく。</p> <p>【活動指標】</p> <p>生徒の興味・関心を持たせることを目指した授業を展開するために、Chromebook やプロジェクタなど ICT 機器を活用した授業を推進する。また、商業の資格と英語の資格を取得することで来年度の進路選択に活用する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 1・2年次に展開するすべての商業科目において、Chromebook または Google classroom を活用した授業を展開する。</p> <p>(2) 1・2年次商業科目において、Chromebook など生徒一人1台端末で活用できるデジタルコンテンツを研究し、近い将来に活用できるよう努める。</p> <p>(3) 外国人生徒に対応するための教材にルビを付けるなど、ユニバーサルデザインの授業作りの考えに基づいた授業作りに努める。</p> <p>(4) 1年次に受験予定の全商・商業系検定の合格率 80%以上を目指し、2年次では上位の商業系検定の合格率 50%以上を目指す。また、実用英語技能検定準2級5名、2級7名、準1級2名以上を目指す(昨年度、準2級2名)。</p> <p>(5) 国際教養科が取り組んでいる英語関連行事をできる限り踏襲する。</p> <p>(6) Ai GROW の指標として測定をする16項目のコンピテンシー指標を見る。</p> <p>姉妹校提携している「台湾 新北市立三重高級商工職業高校」とのオンラインによる交流事業を模索する。</p>	<p>(1)、(2)実施することができた。</p> <p>(3)T・Tで対応した。</p> <p>(4)日商簿記検定が3月下旬のため、結果が出ていない。実用英語検定については、概ね達成できた。</p> <p>(5)台湾の高校との交流、オーストラリア語学研修を踏襲することができた。</p> <p>(6)1年生は2回実施、2年生は3月実施予定。</p>
<p>キャリア教育 (国際教養科)</p>	<p>国際教養科3年生の進路実現に向けて、「GTEC」検定高スコアや実用英語技能検定の上位級取得を目指す。</p> <p>【活動指標】</p>	<p>実用英語技能検定取得者 【1級1名、準1級3名、2級13名、準2級11名】 「GTEC」スコア取得者【受検者5名：1180～1349 1名、930～1179 2名、680</p>

	上記の取組を達成するために、授業等で英語の4技能5領域の育成を目指した授業を展開する。さらに、6月に3年生の希望者を対象に「GTEC」検定を実施する。	～929 2名】	
--	---	----------	--

### 改善課題

【総務】・保護者対象アンケートの回収率が、昨年の52%より下落（令和3年度並）した。生徒配付文書による周知に加えて、きずなネットおよびwebサイトに掲載したが、回答数は伸び悩んだ。回答義務のないアンケートであるため、回答しない保護者は本校の教育活動に概ね満足していると受け取ることもできる。

・令和6年能登半島地震の発生を受け、本校が保管する生徒用の災害時備蓄品について、その品目や数量について検討する必要がある。

【国際教養科】・「GTEC」検定高スコアや実用英語技能検定の上位級取得を目指すためには、受験案内・対策講座の案内だけでなく、資格取得者の把握や受験指導を英語科や各授業担当者で行う必要がある。

・効果的に英語の4技能5領域を育成することを目指し、ALT及び教科間での連携やICTの活用を進めていく必要がある。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
校務連携 (総務)	<p>【活動指標】</p> <p>(1) 分掌、教科、事務と連携を図り、日常的な情報共有、共通認識の形成を通じて、円滑な教育活動の推進に努める。</p> <p>(2) PTA 本部役員と生徒会役員による意見交流を通じて、教員、保護者、生徒の連携を進める</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 朝の打ち合わせ、年間行事計画の調整による情報共有</p> <p>(2) 「VIVA 松商」の実施、成果の検討</p>	<p>・職員間の「朝の打ち合わせ」がオンラインで共有できる環境に加え、12月より県教委によりグループウェアがMicrosoft Teamsへ移行した。円滑に移行するための環境整備を、校内情報化推進担当と進めた。</p> <p>・欠席連絡が朝に集中する問題を受け、3学期より欠席連絡をフォームで行うよう変更した。保護者等からの電話不通が改善されたうえ、事務職員の負担軽減と、校内での欠席状況の共有がすすんだ。</p> <p>・PTAと生徒会の合同行事であるVIVA松商では、傘立ての増設、自動販売機で取り扱う飲料の見直し、QRコード決済について意見が交換され、可能な部分から対応を進めた。</p>	

<p>学校教育活動 の情報発信 (総務)</p>	<p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 学校関係者(保護者・中学生・地域等)に対して、本校の教育活動、部活動、進路等について情報を提供する。</p> <p>(2) モバイル端末配信システムによる平常時および緊急時の情報提供に活用する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生活入門講座(オープンスクール)、授業公開を実施する。</li> <li>・ 学校要覧、中学生用進路説明資料、学校紹介パンフレットを作成する。</li> <li>・ 学校 web の更新を積極的に行い、広報活動の充実を図る。</li> </ul> <p>(2) 生徒、保護者、教職員のきずなネット登録を啓発し、適切な情報提供を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生活入門講座(オープンスクール)を8月17・18日の2日間で実施。471名より申込(昨年は460名)。参加者申込について、中学校経由ではなく、希望者が本校へ直接申し込みを行うこととなったため、中学3年生向けのホームページを作成し、申込フォーム、当日案内、学校案内のPDF掲載、進路説明会使用資料の掲載など、そのほか中学生向け情報を集約して掲載し、本校の魅力を知りやすくする環境を整えた。</li> <li>・ 授業公開は、5月13日(土)に本校保護者向け、10月28日(土)に本校保護者、中学生、中学生保護者に向けて実施した。5月は保護者65名より申込、10月は本校保護者14名、中学生60名、中学生保護者51名より申込があった。(10月は土曜日実施となり、例年より申込者が増加した)</li> <li>・ 学校 web については、昨年より引き続き、教員誰もが更新できる環境で活性化している。</li> </ul>
<p>授業改善の 取組 (教務)</p>	<p>授業ノウハウの共有</p> <p><b>【目標】</b></p> <p>教員が授業の工夫や授業改善を公開、その工夫や改善方法を共有する。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <p>① 年度当初に全教員が授業改善設定シートを作成してデータを共有する。</p> <p>② 年度末に、生徒対象の授業アンケートの結果も活用して成果をまとめ、次年度の自身の授業改善につなげる。またその成果を全体で共有する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>「一人一台端末を活用した授業改善(ICTを活用した授業改善を含む)」に関する取組みや研究を行った教員の割合が90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「一人一台端末を活用した授業改善(ICTを活用した授業改善を含む)」に関する取組みや研究を行った教員の割合・・・74%(昨年度98%)</li> <li>・ 1・2年生が生徒一人一台端末を持っている状況となり、各教科で様々な取り組みが行われている。</li> <li>・ 今年度より全県立学校で導入された採点支援ソフト「百問繚乱」を利用している教員が増えている。教科によるが採点時間の短縮が見られた。</li> </ul>

<p><b>国際教育 (研究)</b></p>	<p>○海外語学研修、台湾 新北市立三重高級商工職業高校との交流等を円滑に実施できるよう検討する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流委員会を実施する。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年3回以上実施する。</li> </ul>	<p>年3回以上実施することができた。</p>	<p>※</p>
<p><b>探究的な 学習の推進 (研究)</b></p>	<p>○「三重丸モデル」を円滑に運営するため、教科横断型の学習の推進と各教科間の調整を図る</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 他教科の関連性を明らかにする。</li> <li>(2) 研究委員会を実施する。</li> </ol> <p><b>【成果指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科目単元配置表を作成する。</li> <li>(2) 年間5回以上実施する。</li> </ol>	<p>(1)について、作成したが、次年度に更に深められるよう続けていきたい。</p> <p>(2)について、3月に5回目を実施予定である。</p>	<p>◎</p>
<p><b>ICT教育 (研究)</b></p>	<p>○産・官・学との連携を推進する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) VISON多気との連携とデジタル田園都市国家構想事業への参加。</li> <li>(2) ベンチャー教育を推進する団体との連携。</li> <li>(3) 松阪市、松阪商工会議所、三重県デジタル社会推進局等との連携。</li> <li>(4) 皇學館大學、高崎商科大学、名古屋商科大学などとの連携</li> </ol> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)～(4)に記載した活動指標を、各1回以上実施する。</li> </ul>	<p>(1)～(4)すべて実施することができた。</p>	<p>※</p>
<p><b>ICT教育 (研究)</b></p>	<p>○AiGROW を用いて生徒の変容を分析し、「三重丸モデル」の検証と改善を行う</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) AiGROW を活用して生徒の気質分析を行う。</li> </ol> <p><b>【成果指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 年3回以上実施する。</li> </ol>	<p>(1)について、1年生は2回実施、2年生は3月実施予定。</p>	<p>※</p>
<p><b>ICT教育 (研究)</b></p>	<p>○校内NWの円滑な運用と情報共有を推進する</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 校内共有サーバによる情報の一元管理を推進する。</li> <li>(2) 特A情報の校外持ち出し禁止の徹底と外部デバイスの取扱いについて注意喚起する。</li> <li>(3) 情報モラル、スマートフォン、BYOD、SNSの取扱いについて注意喚起する。</li> </ol> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)～(3)に記載した活動指標を、各1回以上職員に啓発する。</li> </ul>		<p>※</p>

<p>現職教育の 推進 (研究)</p>	<p>○国際教育、探究的な学習、ICT教育の推進に関わる現職教育を実施する</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 一人1台端末に関わる研修。  (2) 外国につながる生徒の指導。  (3) 学力測定に関わる研修。  (4) DX、AI、オープンデータの取扱いに関する研修。  (5) 探究学習の指導に関わる研修。  (6) 個人情報の取扱いに関わる研修。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・(1)～(6)について、1回以上実施する。</p>	<p>(1)～(6)について、すべて実施することができた。</p>	<p>※</p>
<p>組織としての 生徒指導</p>	<p>(1) 生徒指導におけるチームワーク力を向上させる。  (2) 特別指導、頭髪服装、交通マナー、特別アルバイトなどの指導における情報共有を行い、共通認識を持って生徒に対応する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>課題を有する生徒に対する共通認識を多くの教職員が持ち、組織力の向上を図るために、生徒指導部、学年団、各分掌との情報共有を図る。</p>	<p>職員会議や打合せの場、学年居室等において日頃の生徒の様子などを情報共有した。  職員間で生徒指導にかかる共通認識が持てるよう積極的に職員居室を訪問し、生徒の気になる点などを話し合った。</p>	
<p>進路指導を 教職員全体で 取り組む 体制づくり</p>	<p>面接指導や課外授業など、教職員全体で計画的に生徒の進路指導を行う。</p>	<p>9月上旬に就職希望者、10月上旬に進学希望者を対象に、全職員による面接指導を実施した。  課外授業については夏季休業中に2週間実施した。</p>	
<p>保健部の 活動</p>	<p>(1) 生徒の気持ちに寄り添い、望ましい学校生活が送れるように支援する。  (2) 保健に関する情報提供と健康増進のための情報を発信する。  (3) 健康診断と救急処置及び日常的な保健指導を行う。  (4) 特別支援の必要な生徒の情報共有と支援活動を行う。  (5) 心身の健康教育と、教育相談による心のケアを充実させる。  (6) 校内の環境美化活動とごみの分別を徹底する。</p>	<p>(1)(5)心身の不調や悩みをかかえている生徒が多く、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへとつなげることができた。  (2)毎日の検温を促し、自己の体調管理の大切さを伝えるため、保健（主に感染症予防）関連の情報の発信を行った。  (3)日常の健康管理と負傷後の対処について理解を促すことができた。  (4)特別な支援を必要とした生徒に対し、現状に合わせた支援・情報の共有と提供を行い、外部機関や関係分掌と常に連携をとり、支援活動を継続することができた。</p>	

<p>人権教育研修</p>	<p>教職員の人権意識を高めるため、校内研修を実施するとともに、校外研修についても参加を促進する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 人権教育推進計画に根ざした校内研修の企画および開催。</p> <p>(2) 校外研修の案内および参加の呼びかけ。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 3回の校内研修の企画および開催。</p> <p>(2) 3回の校外研修の案内および参加の呼びかけ</p>	<p>(6)感染症予防のため、関係各所に協力を得ながら、状況に合わせた環境美化を行うことができた</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1)人権教育推進計画に根ざした校内研修の企画および開催。</p> <p>(2)校外研修の案内および参加の呼びかけ。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1)3回の校内研修企画および開催。</p> <p>(2)随時の校外研修案内および参加呼びかけ。</p>	
<p>学校図書館の情報提供 (図書)</p>	<p>各教科との連携を密にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる、教育支援の充実に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>図書館利用につながる案内とサービス(資料提供、レファレンスサービス)を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>必要に応じた案内とサービス(随時)を行う。</p>	<p>教科担当者の相談に合わせて、図書館資料を活用した教育支援を随時行った。</p> <p>新聞社の記事データベースを取り入れ、授業やレファレンスに活用した。</p>	
<p>地域連携 (商業科)</p>	<p>○地域に開かれた商業高校を目指し、地域社会やビジネス社会の現状や要望を反映させた商業教育を展開する</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) マーケティング分野の授業、課題研究において、校外学習を実施する。</p> <p>(2) 近隣の小学校を対象にプログラミング教室を実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 2科目以上実施する。</p> <p>(2) 課題研究において、1回以上実施する。</p>	<p>(1) (2)商業科目「観光ビジネス」と「課題研究」で実施した。</p>	※
<p>教員研修 【商業科】</p>	<p>○商業に係わる研修に参加し、教育活動に還元する</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 三重県高等学校商業教育研究大会、東海地区高等学校商業教育研究大会に参加し、教育活動に還元する。</p> <p>(2) ビジネス探究に係わる商業科教員対象の校内研修を実施する。</p> <p>(3) VISON多気株式会社関係者、QCサークル研修、大学教員による研修会に参加し、授業に還元する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・ (1)～(3)は、年間2回以上、(1)、(2)について、商業科教員の半</p>	<p>(1) (2)名古屋商科大学より講師を招いて実施し、50%以上の商業科教員が参加した。</p> <p>(3)VISON 多気株式会社関係者による授業公開を1回、高崎商科大学の教員による現職教育を1回実施した。</p>	◎

<p><b>組織運営 (国際 ビジネス科)</b></p>	<p>数以上の参加を目指す。</p> <p>国際ビジネス科は、英語を中心とした一般教科と商業の双方を中心的に学習する学科であることから、「英語の4技能5領域」の育成を目指した授業を展開しつつ、地域社会やグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 商業科目においてはすべてチームティーチングを実施する。</p> <p>(2) 国際ビジネス科の運営を円滑に行うための会議(国際ビジネス科委員会(仮称、関係者により構成)の設置を承認して頂き、会議を複数回実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p><b>【活動指標(2)】</b>について、2回以上行う。</p>	<p>(1)すべての商業科目でT・T授業を実施した。</p> <p>(2)1回実施した。</p>	
<p><b>組織運営 (国際教養科)</b></p>	<p>国際教養科3年生の学力向上や進路実現に向けて、きめ細かな指導を行う。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>生徒の学力向上のための情報共有を行い、指導方法を検討する。</p>	<p>支援が必要な生徒(学習面・経済面・人間関係・言語等)の情報を学年の他分掌、教科担当に共有するとともにSSWやSCと連携して対応した。その結果、就職または進学を希望している生徒のうち98%の進路が決定。 (就職:内定5名、進学:合格30名)2月14日現在</p>	
<p><b>働きやすい 職場環境 づくり (管理職)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や既存の取組を、必要性を十分検討しながら積極的に実施していく。</li> <li>・定時退校日に退校できた職員の割合を90%以上にする。</li> <li>・部活動休養日を週1日設定し、休養日取得率を100%にする。</li> <li>・放課後開催・60分以内終了の会議の割合を80%以上にする。</li> <li>・年360hを超える時間外労働者数を0人にする。</li> <li>・月45hを超える時間外労働者数を0人にする。</li> <li>・一人当たりの年間休暇取得日数を10日以上にする。</li> <li>・一人当たりの月平均時間外労働を30時間以内にする。</li> </ul>	<p>(以下、12月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校日に退校できた職員の割合:89.5%</li> <li>・部活動休養日を週1日設定し取得した割合:90.4%</li> <li>・放課後に開催する会議のうち60分以内に終了した会議の割合:55.6%</li> <li>・一人当たりの年間休暇取得日数:14.7日</li> <li>・一人当たりの月平均時間外労働時間:25.8時間</li> </ul>	
<p><b>不祥事根絶 (管理職)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校信頼向上委員会を中心に、コンプライアンスミーティングを実施し事例に学ぶ。</li> <li>・職員会議ごとに時機に応じた注意喚起を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス研修会を1回実施。</li> <li>・時機に応じ、職員に不祥事の事例をあげ注意喚起を行った。現在は2本の動画を視聴して研修する機会を設けている。</li> </ul>	
<p>改善課題</p>			

【総務】・モバイル端末配信システム「きずなネット（中部電力）」は、サービス使用料が PTA 会費により賄われている。県教委より同等のサービス「すぐる（VISOR）」が県教委負担により使用できる状態になっているため、令和 6 年度中に検証し、導入する場合は円滑にすすめたい。

・10 月 28 日の授業公開は、今年度土曜日を実施する機会があったため、中学生 3 年生を対象に広げて実施をした。オープンスクールでは見られない普段の授業を見学する機会になり好評だったが、クラブ活動の公式戦等の校外活動との兼ね合いもあり本校生徒に欠席者がいたこと、中学校の学校行事（文化祭等）が重なったことなど、課題は多かった。

【国際教養科】すべての生徒の進路実現のために、基礎学力や学習習慣を十分に身につけていない生徒、経済面で支援が必要な生徒、外国につながるのがある生徒に対する支援体制（教科、学年、分掌、日本語教育担当者及び SSW や SC 等との連携）をさらに充実させて、きめ細やかな指導をしていく必要がある。

【図書】「主体的・対話的で深い学び」のためにも、図書館利用による学習は有効であり、新聞社の記事データベースなど、探究活動や授業での利活用を推進したい。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・資格取得や検定の合格実績を維持しながら、探究活動と両立させる。</li><li>・外国につながるのがある生徒が活躍する場を広げ、国際ビジネス科の特色化につなげる。</li><li>・地元への就職率の高さを維持しつつ、ミスマッチを起こさない進路指導に取り組んでいく。</li><li>・成人年齢の引き下げに伴い、消費者教育など必要な教育を充実させる。</li></ul>
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・探究活動を進める中で、生徒が主体的に資格取得に取り組むことで、探究活動と資格取得の両立を目指す。</li><li>・今年度取り組んだ「ビジネス探究プログラム」や「三重丸モデル」の継続・定着・深化を進める。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・国際教養科や情報システム科の遺産を引継いでいき、国際ビジネス科の特色化及びDXハイスクール事業（申請中）などを活用してDX化を推進する。</li><li>・引き続き働きやすい職場環境づくりを進めていく。特に会議の内容を精選し、効率化を推進する。</li></ul>